

街路樹

豊かな感性と創造性



「意図的、計画的な作成を」

～ 道徳教育 ～



「芸術の秋」。学習発表会、文化祭、芸術鑑賞などの行事をとおして子どもたちは大きく成長します。「力を合わせて」、「心を一つに」など、学級や学年が一つの目標に向かう「仲間と力を合わせる喜び」を味わわせることのできる素晴らしい機会です。これらをとおして、各校においては、豊かな感性と創造性を育てていることでしょう。

中央審議会教育課程企画特別部会の「論点整理」では「学校は、『日々の豊かな生活を通して、未来の創造を目指す』場となる必要がある」と、述べています。子どもたち自身が創り出す未来と社会を見据えたときに、創造性の育成がますます重要な課題となっています。

創造性を育むために大切なことは、本当に心から感動させることや心から知りたいという強い気持ちをもたせることです。それには、「本物に触れる」ことが一番です。さらには、教師の「こんな力をつけさせたい」という目標と、その計画が必要とされます。また、より素晴らしいものにするために、子どもたちに気付かせたり創造させたりし、「自分たちの思いを生かした作品」という意識をもたせることも大切です。教師の押しつけではなく、児童や生徒の思いや願いを上手に引き出して作り上げたものは、子どもたちにとって一生忘れられない宝物になります。「心から喜べる達成感」「心から楽しめる充実感」を味わった子どもたちは、意欲や自信に満ち次へのステップに進むことができます。 「感性を磨く」ということは、「創造力を高める」ことになりま

- ・物の捉え方が人とは違うようになる。
- ・発想力が養われる。
- ・些細なことも見逃さずに観察できるようになる。
- ・人の気持ちに敏感になれる。
- ・芸術的なセンスが磨かれる。

学校教育の中で、子どもたちからこんな姿が見られるようになったら素敵ですね。感性の豊かさというのは、人間としての総合的な能力の高さなのです。テストで満点が取れても、コミュニケーションが取れないとせっかくの能力も活かされません。他者と協働しながら創造性を養い、高い志と意欲をもって未来を切り開いていくこと、それが豊かな「未来社会」を創り上げるのです。

子どもたちにとって「実りある秋」となるよう、豊かな感性と創造性の育成をお願いします。



「今度、道徳の研究授業をします。教材(資料)は何がいいでしょう。」



こんな相談をされたら、先生方はどのように助言しますか？

- 『〇〇〇』なんてどう。いい教材だよ。やってみたら・・・
(子どもたちから多様な考えが引き出せる教材を紹介する。)
- 「今の学級の実態はどんな感じなの？それなら！」
(学級の実態を聞き、それにあった教材を勧める。)
- 「いつやるの？それなら宿泊活動との関連を図って・・・」
(各教科、体験活動等との関連を考慮し、効果が高められるように助言する。)
- 「今までどんな教材(資料)で行ったの？」
(内容項目の関連性や学年段階ごとの発展性を考慮するよう助言する。)

・Aの先生は、日頃から道徳の実践を多く行っていることが窺えます。授業では、ねらいや教材の質的な深まりを図り問題解決的な学習や多様な指導方法を用いるなどの工夫をしていることでしょう。

・Bの先生は、児童生徒の実態に応じて重点的指導を工夫していると思います。児童生徒の実態を意識し、その変容も見取っていることでしょう。

・Cの先生は、各教科や体験活動との関連を図ることで、指導の効果を上げることができると、具体的な関連の見通しをもっているのではないかと思います。

・Dの先生は、小学校6年間(中学校3年間)を見通した計画的、発展的な指導が行えるよう心がけていると想像されます。

どの答えも主題(ねらいと教材)の設定においては大切なことです。しかし、問題なのは、「今度・・・」がいつなのかということです。

「年間指導計画は、学校の教育計画として意図的、計画的に作成されたものであり、指導者の恣意による不用意な変更や修正が行われるべきではない。変更や修正を行う場合は、児童の道徳性を養うという観点から考えて、より大きな効果を期待できるという判断を前提として、**学年などによる検討を経て校長の了解を得ることが必要である。**」と改訂学習指導要領解説(特別の教科 道徳編)に明記されています。

つまり、この相談が、授業直前になされてはダメなのです。しかし、同じ話合いでも、年間指導計画の作成時に育成すべき資質能力を明確にした上で、全職員で行われれば、それこそが『カリキュラムマネジメント』となるのです。

すべての教職員は、自校の子どもたちに道徳性を養うためには「いかにすべきか」を考え、「協働」して年間指導計画を作成し、課題や目標を共有して対応しなければならぬのです。

さあ、まずは、平成29年度の年間指導計画を意図的、計画的に作成してみましょう。

「特別の教科 道徳」が全面実施となる前に!



十人十色 ～教育相談室～

「学業に課題があると言われ、当センターの教育相談に」と、ある親子がやって来ました。子どもの様子を見るためにいくつかの質問をすると、子どもはすぐには答えず、じっくり考えていることが見て取れました。しばらくして、おもむろに小さな声で答えました。

このような場合、大人はどうしても待つことができずに、「早く答えなさい」「分からないの」と矢継ぎ早に言葉を繋いでしまったり、子どもが答えようとしていることを代弁してしまったりしがちです。「今、答えようと思っていたのに」と、子どもの心の声が聞こえてきそうです。このような経験を繰り返していると、「どうせ答えなくても大人が代わりに言ってくれるんだ」と、益々自分の思いを表現しなくなってしまいます。

反応の早い子、遅い子、積極的な子、おとなしい子、自己主張の強い子など、特性は十人十色です。その子の特性に合った指導が行われ、どの子も笑顔になれるといいなあ。

